

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊通物流(株)安城デバイスセンター新倉庫	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県安城市尾崎町大崎1-1の一部、1-2、西向70-1の一部、71-4、118	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	60人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,952時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年8月 予定	評価の実施日	2021年8月31日
敷地面積	4,230 m <sup>2</sup>	作成者	豊通ファンリテーズ一級建築士事務所 竹内勝洋
建築面積	3,021 m <sup>2</sup>	確認日	2021年8月31日
延床面積	6,489 m <sup>2</sup>	確認者	豊通ファンリテーズ一級建築士事務所 竹内勝洋



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

★ ★ ★ ★ ★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	81%
③上記+②以外の	81%
④上記+	81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質**

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR 環境負荷低減性**

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;"><b>3.7</b></p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;"><b>1.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;"><b>0.0 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;"><b>0.0 %</b></p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;"><b>3.7</b></p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;"><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	評価点	評価点			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.7</b>	
<b>Q1 室内環境</b>										-	
<b>1 音環境</b>										-	
1.1 室内騒音レベル					3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音					-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能					-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能					-	-	-	3.0	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	-	3.0	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	3.0	-	-	
1.3 吸音					-	-	-	3.0	-	-	
<b>2 温熱環境</b>										-	
2.1 室温制御					-	-	-	-	-	-	
1 室温					3.0	-	-	3.0	-	-	
2 外皮性能					3.0	-	-	3.0	-	-	
3 ゾーン別制御性					3.0	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					3.0	-	-	3.0	-	-	
2.3 空調方式					3.0	-	-	3.0	-	-	
<b>3 光・視環境</b>										-	
3.1 昼光利用					-	-	-	-	-	-	
1 昼光率					3.0	-	-	3.0	-	-	
2 方位別開口					-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備					3.0	-	-	3.0	-	-	
3.2 グレア対策					-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御					5.0	-	-	3.0	-	-	
3.3 照度					3.0	-	-	3.0	-	-	
3.4 照明制御					3.0	-	-	3.0	-	-	
<b>4 空気質環境</b>										-	
4.1 発生源対策					-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質					3.0	-	-	3.0	-	-	
4.2 換気					-	-	-	-	-	-	
1 換気量					3.0	-	-	3.0	-	-	
2 自然換気性能					3.0	-	-	3.0	-	-	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	-	-	3.0	-	-	
4.3 運用管理					-	-	-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視					3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					3.0	-	-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>										<b>3.6</b>	
<b>1 機能性</b>										-	
1.1 機能性・使いやすさ					-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性					3.0	-	-	3.0	-	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	-	3.0	-	-	
3 バリアフリー計画	独自				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性					-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)					3.0	-	-	3.0	-	-	
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画					3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理					-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保					-	-	-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>										<b>3.2</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.5	3.2	0.52	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					0.4	3.0	0.48	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	3.9	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.23	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			サンドイッチパネル:30年	-	5.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				床→コンクリート、壁→ボード、天井→フラットデッキ表し:30年	-	5.0	0.09	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	3.0	0.08	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水→SGP-VA、排水→VP、冷媒→冷媒用被覆銅管	-	5.0	0.15	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.23	-	-	-	
2.4 信頼性					0.1	2.6	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備					3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備					3.0	2.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備					3.0	3.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備					3.0	2.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	②	階高:4.0m以上 壁長さ比率:0.13 設定床荷重:4500N/m <sup>2</sup> 以上	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40		3.0	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	5.0	0.31		3.0	-
3.3 設備の更新性			0.3	3.2	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	構造材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。	3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-
3	電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11		-	-
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57		-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.9
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.67	3.0	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.6	3.0	5.0	0.50		-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			過半に節水器具を使用	3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.9	0.63	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル床材、天井岩綿吸音板、デッキスラブ	3.0	5.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	OAフロアを使用している。	3.0	5.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			含有しない建材種別が3つ。	3.0	4.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68		-	
1	消火剤			-	-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤を用いた断熱材を使用	-	4.0	0.50		-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率81%	-	3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33		-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器は使用していない。	-	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制	独自	排出基準を満たした上でそれ以上の特別な工夫を実施している。	-	4.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00		-	
2	振動	独自		-	-	-		-	
3	悪臭			-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-		-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックリスト項目の過半を満足している。	-	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

豊通物流(株)安城デバイスセンター新倉庫

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	1, 隣接する国道1号線側、名古屋鉄道本線に対しては行政・関係機関を綿密に協議し、道路景観の確保、利便性・安全性の追求を行う。 2, 屋根・外壁は断熱材サンドイッチした金属製パネルで、耐候性の高い工場塗装品を採用し、建物全体におけるランニングコストの低減と耐火性能を備えた仕様とする。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	耐用年数の長い材料を採用し、建物の維持管理に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	国道、名鉄沿線の屋外広告物禁止区域において、安城市に対しパース等で視覚的に説明し条例を遵守し周辺環境に配慮した計画とした。
LR1 エネルギー	保管する精密機器の品質維持の観点から空調導入の倉庫となるが、そのランニングコストの低減のために、屋根(グラスウール密度16kgm <sup>3</sup> )・外壁(t75ロックウール充填)・開口部(Low-Eペアガラス)・屋根下に熱反射系素材(リフレティックス)の導入をし、外皮性能を高めた施設としている。
LR2 資源・マテリアル	泡沫水栓や、省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。 浄化槽は周辺水利組合の求めの性能に対し、本計画はより高い性能で設定している。<従前>放流水質:BOD 20mg/L、COD 30mg/L、SS 20mg/L→<本計画>BOD 10mg/L、COD 20mg/L、SS 10mg/L フリーアクセスフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。 適切な量の駐輪場・一般車両駐車場を確保し利便性に配慮。 トラック駐車場の確保や国道に対し出入口を1カ所にし守衛所を併設するなど周辺交通負荷の抑制に配慮している。
その他	特になし。